令和6年度 園評価書

園番号 45 園名 清水こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標		自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
意欲的に取り組む子	“やりたい”がそこに	もの・こととの出会いに心動かされ「やりたい！」と自ら遊びに向かい夢中になって遊ぶ	様々な素材に触れ、自分なりの楽しみ方を見つけ夢中になって遊んでいる。自分たちで好きな遊びを見つけることができる	A	A	・大人がおもしろがるのが環境設定にもつながり子どもの意欲を膨らめていたり、引き出したりしていると思う。先生たちも一緒に面白がるのが大切だと思う	子どもの思いつきを「それ、いいね」「おもしろそう」と肯定的にとらえ、興味・関心や挑戦しようとする気持ちに寄り添っていく
		「もっとこうしたい！」と強い思いを持ち、自分なりに考えたり試したり工夫したりしながら遊ぶ	自分のやりたい思いをわかってくれる保育者の存在やさりげなく援助してもらうことで自分なりの思いをもって遊びに向かうことができる	A	A	・先生たちの子どもへの「こうしてあげたい」という思いが素敵	「もっとこうしたい」という思いを支える環境を作る。(保育者の関わり、時間の保障、選べる素材、遊びの場)
		自分の思いを伝えたり、友達の思いを聞いたりしながら一緒に遊びを進め、広げる	可動遊具を組み立て、イメージしたものを作ろうとする中「こうしたい」「こうしたらどう？」など友達と意思を出しながら遊んでいる。話を聞くことには個人差や発達の差もあり、個々に合わせたかかわりが必要	A	A	・子どもたちが自分で考えながら、遊びを進めている、そして楽しんでいることが子どもの姿や表情から伝わる	保育者が一人一人の思いや考えを丁寧に受けとめ、友達へ発信したりつなげたりする工夫を行う(タブレット動画を活用した遊びの振り返り)

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標		園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	各学年の遊び構想や環境図を共有し、ねらいを明確にしながらかそれぞれの遊びを保障し、継続へつなげる	月反省や会議などでタブレット動画や写真ボードを使い、子どもの様子や遊びを保育者間で共有することができ遊びに必要な環境や教材を考え、子どもの遊びや育ちを支えている	A	A	・子どもの発達を捉えて環境を作ったり、必要なものの用意ができている。それは子どもをよく見ているからこそできる	日頃から子どもの姿を語り合い園全体で子どもの育ちを支える意識をもつ。動画を使って、子ども理解を深める話し合いをしたり育ちを共有をしたりする	
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	家庭と連携し一人一人の育ちや健康状態、生活リズムに考慮し、安心して園生活が送れるようにする	家庭と連携を図り、個々の生活リズムや健康状態に合わせて活動内容を考えたり早めに休息をとるようにしたり等安心して過ごせるようにしている	A	A	・タイヤやコンテナなど、たくさんあるがどのように集めたのか →職員が知り合いに声をかけてもらってきたりしている。桶や板はホームセンターで購入している	長時間保育や細かな支援が必要な家庭もあるので、個に合った丁寧な関わりをし子どもが安定して過ごせるようにする	
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子ども一人一人の表情やつぶやき、心が動いた瞬間を捉え「やりたい！」が実現するための関わりや環境作りを工夫する	子どもと一緒に遊ぶ中で、つぶやきや表情、行動などから心の動く瞬間を見逃さずタイミングを捉えた。そこから子どもが自ら選んで遊ぶことが出来る素材、教材の種類や数を用意したことで繰り返し試せる環境につながり遊びが広がってきている	A	A	・毎月どのくらいのヒヤリハットがでているのか →小さなことも含めて20件位	保育者も子どもと一緒に遊び、興味・関心をとらえ、個に応じたねらいをもった言葉かけや教材の準備、場の構成などをし、遊びの充実を図る	
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園内外の点検、改善や事故、ケガの検証をし、安心安全な保育環境を整える	毎月ヒヤリハットの事例を出し合ったり怪我が起きた際に検証を行ったりし、職員で対策と改善策を共有することで怪我や事故の防止につながっている	A	A	・小さなこどもでもしっかりと、その数があがってくるのは素晴らしいこと。1件の重大事故の裏には29件の軽微な事故が隠れていて、さらにその裏には300件のヒヤリハットが隠れているといわれている。だからこそ、定期的にみんなで行うことが大切だと思う	職員も子どもも減災の意識を持ち、子どもたちが自分で身を守ることにつながる訓練を計画、実施する	
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	発達に合わせた衛生習慣を身につけ、健康に過ごすことの大切さを知らせる	手洗いの手順表やナースだよりを掲示し視覚化したり保育者も見本となつて一緒に行うことで手洗いうがい、着替え、鼻をかむなどの衛生習慣が身につけてきた。幼児は手洗いうがいが健康につながることに興味をもちつつある	A	A	・職員間の風通しの良さ、笑顔がいっぱいなどこの園の良さ。それがとても大事で子どもの育ちにも影響している。「やってみよう！」と失敗をおそれない気持ちを支えていると思うので、継続してほしい	健康に過ごすために必要なことや自分の体のことなどに関心をもてるよう月ごとのねらいを明確にして取り組む	
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	特別支援教育保育活動(ミッキー活動)のねらいを明確にし、取組内容の工夫と改善を行いながら全職員で特性や支援方法を周知し、スキル向上を図る	支援児の興味関心に合わせたミッキー活動を少人数で行うことで一人一人の楽しさや褒めを増やすことにつながった。個別の特性や支援方法など全職員に周知することが難しく今後はケース会議等を通して共有を図る必要がある	B	B	・職員間の風通しの良さ、笑顔がいっぱいなどこの園の良さ。それがとても大事で子どもの育ちにも影響している。「やってみよう！」と失敗をおそれない気持ちを支えていると思うので、継続してほしい	年度初めに特性を伝え合い職員で共有する。支援児について特性や関わるときの配慮など園全体で共有する機会を持つ(月反省時に共有)	
5 組織運営	(1)組織体制の充実	分掌を中心にPDCAサイクルを継続的、安定的に実施する中で職員一人一人が自分事と捉えて行動し、同僚性を発揮している	年間計画をもとに各分掌が計画的に取り組み、職員で協力し合い行事や毎日の活動を豊かなものにしてはいるが、リーダーの負担が大きい分掌もある。年度初めに分掌ごとに活動内容の共有と仕事の分担をすると良いのではないかと	A	A	・タブレットでの発信が始まったが、アプリを開いて確認することはひと手間かかっている。今までのボードで日々の様子を見ていたほうが保育の意図や先生の思いなども伝わりやすく、楽しかった。メールだと活動報告のような感覚もある	年度初めに、各分掌で年間の見通しや役割分担を確認する。行事の進捗状況が分かるように随時、報告、企画書への赤ペンを入れ見るところに掲示しフリー職員への共有も図る	
6 研 修	(1)研修体制の充実	教材研究の充実(わくわく研修)と研修体制(清水スタイル)の確立を図りながら月の振り返りや公開保育の事後研修ごとに手だての有効性の検証をしていく	公開保育や事後研修での学びを自分のクラスでも実践することが、皆で学ぶ清水スタイルの確立に活かされている。わくわく研修の時間を確保することが難しかったが、即実践につながる教材の研究の場として内容・回数など検討していく	A	A	・地域を活用というところでは、大型船の来航や出航イベントに小学校が参加しているの、こども園も関わるとよいのではないかと。敬老会なども地域の方も喜ぶので今後も参加して欲しい。引き続き連携をもち、小学校、中学校とのつながりも大切にしていきたい	公開保育時に研修テーマに沿った視点で子どもの育ちをワークシートを用いて学んでいく。わくわく研修は教材研究、職員の交流の場としても有効なため、内容、回数を検討し継続していく	
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	「やりたい！」と自ら遊びに向かえる遊び出しの環境と「明日もやりたい」「もっとやりたい」と遊びの継続につながるための工夫した片付け(遊びの終わり方)ができている	毎朝、子どもの興味関心に沿った環境を準備することで子ども自ら遊びに向かう姿が見られている。遊びの終わり方や片付けについてはとつき棚の活用を含め検討していく	A	A	・地域を活用というところでは、大型船の来航や出航イベントに小学校が参加しているの、こども園も関わるとよいのではないかと。敬老会なども地域の方も喜ぶので今後も参加して欲しい。引き続き連携をもち、小学校、中学校とのつながりも大切にしていきたい	遊びの終わり方や片付けについて、とつき棚の活用を含め考えていく	
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	必要に応じて個人面談を取り入れたり、写真ボードやタブレット等で園の取り組みを可視化し、保護者に子どもの育ちや保育者の意図をわかりやすく発信し共有していく	個人面談や連絡ノート、タブレット配信、写真ボードなどを通して子どもの姿や園の取り組みを保護者にわかりやすく発信している。その積み重ねが園への信頼にもつながっている。コドモンアプリが導入されたがタブレットの扱いが難しかったり、家庭での様子がわかりにくかったり等課題もある	A	A	・地域を活用というところでは、大型船の来航や出航イベントに小学校が参加しているの、こども園も関わるとよいのではないかと。敬老会なども地域の方も喜ぶので今後も参加して欲しい。引き続き連携をもち、小学校、中学校とのつながりも大切にしていきたい	タブレット配信、紙ベースでのおたより、ボードでの掲示など何をどこまでねらうのかなど伝達、共有の方法を工夫する。送迎時の対面でのやり取りも大切にする	
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	小学校との円滑な接続に向けて、アプローチャリキュラムの見直しや様々な交流を進める。また、近隣園との開かれた交流や公開保育を通じて、職員同士が学び合う機会を作る	年長児が近隣園との交流や小学校に出向くことで就学につながるような取り組みができていた。公開保育を通じて他園の保育を見たり、他園の職員にも自園の事後研修に参加してもらい意見をいただくことで互いに学び合うことができた	A	A	・地域を活用というところでは、大型船の来航や出航イベントに小学校が参加しているの、こども園も関わるとよいのではないかと。敬老会なども地域の方も喜ぶので今後も参加して欲しい。引き続き連携をもち、小学校、中学校とのつながりも大切にしていきたい	小学校が身近に感じられるように、また近隣園との交流等を計画的に行い(年3回以上)同じ小学校へ行く友達がいることでの期待や就学への安心感につながるようにする	
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域資源(自然・文化・人材)を遊びに取り入れ、近隣園との交流を行ったりしながら、地域や地域の子ども同士のつながりを広げていく	地域の敬老会に参加したり次郎長通りの商店街に七夕の短冊を飾ってもらう等地域とのつながりを大切にしている。ドリブラへ大型船を見に行ったり神社へドングリを拾いに行ったり保育に地域資源をいかしている	A	A	・地域を活用というところでは、大型船の来航や出航イベントに小学校が参加しているの、こども園も関わるとよいのではないかと。敬老会なども地域の方も喜ぶので今後も参加して欲しい。引き続き連携をもち、小学校、中学校とのつながりも大切にしていきたい	小学校と連携し大型客船の入航、出航時を見に行ったり、敬老会に参加し地域の方との触れ合ったりし、園外での経験を保育計画に取り入れる	